

第1回柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事要約

日 時	平成27年6月3日(水) 午後2時から午後3時20分
場 所	柏原市役所本館2階会議室(秘書課横)
出 席 者	(柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員) ○石村委員(パナソニックサイクルテック株式会社) ○大堀委員(大阪教育大学) ○大村委員(市民) ○岡村委員(株式会社りそな銀行柏原支店) ○奥田委員(柏原市にぎわい都市創造部) ○重森委員(関西福祉科学大学地域連携センター) ○谷委員(柏原市労働組合協議会) ○松井委員(柏原市政策推進部) ○巳波委員(柏原市こども未来部) ○宮崎委員(JA大阪中河内営農総合センター)
事 務 局	○石橋政策推進部次長兼企画調整課長 ○瀬田企画調整課参事 ○山本企画調整課長補佐
会 議 次 第	1 開会 2 任命書交付式 3 市長あいさつ 4 委員及び事務局の紹介 5 委員長及び副委員長の選出について 6 議事 (1) 推進委員会について (2) まち・ひと・しごと創生について (3) 今後のスケジュールについて 7 閉会

任命書交付式

	○市長室において、市長より任命書の交付 ○市長よりあいさつ
--	--------------------------------------

議 事

(事務局)	<p>【資料確認】</p> <p>会議次第</p> <p>資料1 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則</p> <p>資料2 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会について</p> <p>資料3 まち・ひと・しごと創生事業の概要</p> <p>資料4 柏原市人口ビジョン策定にかかるイメージ</p> <p>資料5 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にかかるイメージ</p> <p>資料6 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール</p> <p>資料7 6月から9月までの詳細スケジュール</p> <p>参考資料 国のまち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』『総合戦略』</p> <p>以上。</p>
(事務局)	<p>【委員会成立報告】</p> <p>本日は、委員10名全員ご出席いただき、推進委員会規則第5条第2項の規定に基づいて、委員会が成立していることを報告。</p>
(事務局)	<p>【3 委員及び事務局の紹介】</p> <p>名簿に基づき、事務局から分野別に委員を紹介。</p> <p>〔教育機関代表〕</p> <p>国立大学法人 大阪教育大学 学術部長の 大堀 耕嗣（おおほり こうじ）委員。</p> <p>学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学 地域連携センター長の 重森 健太（しげもり けんた）委員。</p> <p>〔金融機関代表〕</p> <p>株式会社りそな銀行柏原支店 支店長の 岡村 竜也（おかむら たつや）委員。</p> <p>J A大阪中河内 営農経済部長の 宮崎 郁治（みやざき いくじ）委員。</p> <p>〔公募市民代表〕</p> <p>大村 吉昭（おおむら よしあき）委員。</p> <p>〔産業界（企業）代表〕</p> <p>パナソニックインテック株式会社 人事総務グループ 総務チームリーダーの 石村 恒次（いしむら こうじ）委員。</p> <p>〔労働団体代表〕</p> <p>柏原市労働組合協議会 議長の 谷 定義（たに さだよし）委員。</p>

	<p>〔行政機関代表〕</p> <p>柏原市政策推進部長の 松井 久尚（まつい ひさなお）委員。</p> <p>こども未来部長の 巳波 敬子（みわ けいこ）委員。</p> <p>にぎわい都市創造部長の 奥田 隆一（おくだ りゅういち）委員。</p> <p>委員は以上 10 名です。 あと、事務局として、柏原市商工会にもご参画いただいている。</p> <p>【委員長及び副委員長の選出】</p> <p>次に、推進委員会規則第 4 条の規定に基づき、委員会に委員長及び副委員長を置くことになっており、委員の互選により定めることとなるが、委員長、副委員長への推薦はあるか。</p> <p>（推薦の有無 確認）</p> <p>推薦がないので、事務局提案として松井委員に委員長を、奥田委員に副委員長をお願いしたいと思うが、いかがか。</p> <p>（承認の拍手あり）</p> <p>ありがとうございます。それでは、委員長は松井委員、副委員長は奥田委員に決定します。委員長、ごあいさつをお願いします。</p> <p>ご紹介いただきました松井でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。柏原市においても人口減少が続き、少子高齢化問題を抱えている。こういった中でまちの魅力を取り戻して地域に活気を取り戻す。そして、まちを再生していくということで、柏原市のまち・ひと・しごと創生総合戦略というのをこの委員会において策定いただき、また、進捗管理もしてまいりたい。委員におかれては、忌憚のないご意見、ご提言をいただき、柏原市にとってより良いものを作って、より良い事業を進めていきたいと思っているので、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>
(事務局)	
委員長	

(事務局)	ありがとうございました。それでは、ここからは委員長に議事の進行をお任せします。委員長、よろしくお願いします。
委員長	それでは、次第の議事に沿って、議題1について、事務局から説明をお願いします。
(事務局)	(事務局 説明)
委員長	ただいまの事務局からの役割についての説明について、何かご意見ご質問がありましたら、よろしくお願いします。
委員長	この委員会については、まず総合戦略を策定していく。そして、その進捗管理をしていくということ。
委員長	特に意見が無いようなので、議題2「まち・ひと・しごと創生」について、国の取組と考え方、そして柏原市の人口ビジョンと総合戦略について、あわせて説明をお願いします。
(事務局)	(事務局 説明)
委員長	今、国の取組、考え方、そして柏原市の人口ビジョン、総合戦略をこれから作っていくということで、概要を示していただいた。国の総合戦略の中身はまたホームページ等で後ほど見ていただければよいが、国も非常に人口が減ってきているということで、4つの大きな基本目標を定めて動いている。それに基づいて、これから地方で人口ビジョンを定めていく。柏原市における人口動態、推移を定めた上で計画を練っていくということだと思う。私から事務局に確認したいが、今聞いていて整理したいのは、まずこの委員会でどういう風に進めていくのかということをご共有したい。人口ビジョンについては、委託業者をお願いして色々な数字を成果物という形にしてもらうが、この人口ビジョンと総合戦略の数字は反映させるのか、させないのかを確認したい。
(事務局)	総合計画では、5年後に人口8万人に到達することを目標に計画を立てられているが、その8万人という目標を今の人口ビジョンに持ってきてても到底無理であると考えているので、最終的にどこを目指すのかということについては、政策においてそのまま何も手を打たずに進んでいくと、年500人ずつ人口が減っていき、2060年には5万人台に到達してしまうので、どこまで施策を打って人口の歯止めを7

	<p>万人にするのか、それとも6万5千人にするのか、というようなところを出生率とか人口の移動などを分析しながら定めていく。例えば45年後に6万5千人という数字を出したら、その6万5千人に到達するためにどういった施策をとっていかなければならないかということ反映していく。</p>
<p>委員長</p>	<p>今の説明で行くと、人口ビジョンと総合戦略というのはリンクしている、一緒につくり上げるということで、これから市の内部でも施策を考えていくと思う。各委員の皆さんからもご意見をいただきながら戦略を作っていく。そして、例えば人口を確保できる戦略があれば、それに基づく人口推計値を人口ビジョンに盛り込んで作り上げていく。今、国の機関で社人研というところがあるが、そういう人口問題を研究しているところでは柏原でも実態として毎年500名ぐらいどんどん減っている。これに歯止めをかけることのできるラインを総合計画の目標値とは別に作っていくということで理解いただけたらと思う。実際に、今はまだ施策の提示がないので、このしくみだけご理解いただくとして、次回ほどの程度具体的なことが出てくるのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>庁内のワーキング会議を6月の下旬に行い、その情報提供を委員会に事前におこなう。例えば、人口ビジョンを作り上げる前には、人口ビジョンの考え方についての案を事前にご覧いただき、それに対して会議の場で意見をいただく。総合戦略についても、具体的な施策をこちらが考えている部分について事前に提示させていただき、それが人口ビジョンに沿うような総合戦略になっているかといったことを踏まえてご意見をいただくという予定。</p>
<p>A 委員</p>	<p>人口の8万人という数字とか出生率の1.5、1.8、2.0という目標値が挙がっているが、出生率が何パーセントの時に8万人になるのかというのは計算しているのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>そこまでは出ていないが、現状の人口を維持していこうと思うと、出生率は2.0を確保しておかないと、今の人口は維持できない。今が7万2千人だから、2.5から3.0くらいの出生率を確保しないと人口が増えていかないので、8万人を目指していかないということになる。これは、自然増減によるもので、あとは社会増減がある。</p>
<p>A 委員</p>	<p>その中で、8万人に持って行ける政策を目指していくということか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>いいえ、そこまでは難しい。</p>

B 委員	第4次総合計画において目標が8万人ということだが、この計画はいつからのものか。
(事務局)	2010年からで、今で5年目。当時の考え方と、今課題になっている部分というのには、大きなずれが生じており、当時の策定の経緯を見ると、具体性の少し薄い目標値ということなので、今と乖離が出てきていると考えている。
委員長	特に、8万人というのは総合計画に出ているが、この「まち・ひと・しごと」ではそこに縛られることはないと思う。今後示される数字を見ていただいてご検討いただければと思う。
C 委員	事前に色々と資料を見ていると、同じようにこういうプランを作っている京丹後市では人口が回復するような人口ビジョンを立てて、それがあり得ないような話が出ているが、実際に8万人という数字は改めて精査する必要があると思う。
(事務局)	ちなみに、少し事情を説明すると、ちょうど今計画の中間年に入っており、総合計画については中間で一度見直しをするということがその当時決まっており、総合戦略の議論と一緒に、中間の見直しも同時進行で内部検討に入っている。ただ、本体を一からやり直すとなると別の作業が必要になるので、まず総合戦略の中では現状に合った数字や実施する内容でやっていきたいと思っており、総合計画をなくすことはできないので、具体的な中身のどの部分に力を入れていくのかという部分で、実際の取り扱いを少し変えていきたいと考えている。総合計画本体自体を作り直す必要はないと考えているので、そこと若干違う部分については、それはそれで整理をしていきたいと考えている。総合計画の中身自体はもちろん吟味していくが、人口部分については、それにとらわれることなく議論を進めていきたい。
委員長	市役所の内部でもいろいろな施策なり事業の案を考えていると思うが、子育てや教育、福祉など、実際に企業さんが柏原で展開されててどのような思いを持っておられるのかといったことも、これからアンケートをやって情報を得ていくとはいうものの、そういう部分では市役所だけではうまくいかない、把握できないところもあると思うので、委員の皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい。
委員長	あと、特になければ議題3の今後のスケジュールについて説明をお願いします。

(事務局)	(事務局 説明)
委員長	<p>このスケジュールを見ると結構タイトな感じがする。国が昨年末に総合戦略を作り、そこから地方に流れてきている訳だが、この日程で進めていくうえでできるだけご協力いただきたい。それから、情報についてはその都度事務局からできるだけ早い段階で委員の皆さんに通知をしていただきながら、ご意見やご提言をいただきやすいように進めていただきたい。</p> <p>ところで、アンケートを2000人対象で実施し、これについても委員会に意見を求めるということだが、どういうアンケートを取ってどういう集約をし、どういう風に活かしていくのかというところについて聞きたい。</p>
(事務局)	<p>アンケートの目的というのは、柏原市の強みと弱みを探るというようなところで、まず市内の方々になぜ柏原市に住み続けているのかというところを探るアンケート、それからどこか出ていきたいと考えている理由などを質問形式にして市民の意向を探る。その中には、にぎわい度が少ない、商店街がシャッター通りになっている、大型店舗がない、道が狭い、というような項目を探り出していきたいということがある。その点を教育環境や子育て環境からこういう観点が抜けているといったようなご意見やこんな質問があればということ、素案段階で頂きたいと考えている。</p>
委員長	<p>まだまだ案ということで、可能であればということになるが、市内には大学が2つあり学生もたくさんいるので、そういう人たちはどう考えているのかとか、企業の方々はどう考えているのかとか、そんな視点もあっていいのではないかと思う。</p>
(事務局)	<p>とりあえず委託業者が決まっており、明後日にアンケートの案を作成して持ってきてもらうので、来週早々には皆様にご提示したいと考えている。なお、郵送アンケートについては市内の在住の方に送る予定で、それ以外にインターネットによるウェブアンケートを考えており、これについては市外の方に対し、柏原の認知度や来訪頻度、そして魅力度合いを調べたいと考えているが、ウェブアンケートということでどこまで市外の方の目に留まって回答いただけるかという部分では、努力しつつも集まりにくい部分もあると思うので、その点はアンケートを実施する段階で委員の皆様にご協力いただけるようでしたらお願いしたいと考えている。</p>

<p>委員長</p>	<p>議題がすべて終了した。今回は、これからやっていくというところでご理解いただけたらいいのではないかと思います。実質的には次回から進めていくことになると思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>それでは、そのほかに事務局から何かあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今回は8月上旬に開催したいと考えており、ご案内は、日程調整を含めましてできるだけ早い時期にご連絡させていただき、開催日程を決めたいと考えている。それから、6月、7月中に素案の作成作業を進めているので、委員の皆様から施策に関する専門的な立場から考えられる提案等があれば、個別に連絡いただきたい。また、意見については、事前にお示しする案に対し、それが有効であるのか、あるいは具体的な施策等に付け加えた方がいい部分や必要のない部分などの意見をお願いしたい。</p>
<p>D 委員</p>	<p>先ほど市の総合戦略のイメージをについて、庁内でのワーキングが開かれて、にぎわいのあるまちかしわら（地方における安定した雇用を創出する）の部分と子育てのところが今月末に検討されて、それが先行して行われるという意味なのか。資料はあくまでも例示であると理解しているが、資料の数値目標や基本的方向といった指標でこの雇用がこれだけアップするとはちょっと考えにくい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>イメージとしての例示です。</p>
<p>D 委員</p>	<p>そういうところは、早く案を示していただきたい。資料には大学の連携についての記入があるので、こういうところは、どういう形の部分が出てくるのか大学関係者としては気になる。本学も5000人の学生がいるが、ほとんどここには居なくて、できれば大学のそばで住まわせたいが、なかなか入れるところがなく、大学の宿舎が市外にあるので、資料の例にある「地元大学進学による定住促進」という部分がどういうイメージなのか、分かれば早く教えていただければ、こちらでも検討してみたい部分がある。というのも、本学ではミッションというものがあり、それを達成しなければ補助金が出ないという状況で、就職率何パーセントという目標を掲げられ、それが達成できなければ国から予算が出ない。予算が出なければ、大学はつぶれてしまう。大学も大きく改組しようと動いているので、そこに少しでも組み込めたらと考えている。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>おっしゃるとおりで、例えば、資料5の4ページに「地方創生先行型事業」ということで一覧表を挙げたが、これは市の中で完結できる</p>

<p>D 委員</p> <p>(事務局)</p>	<p>事業ばかり挙がっている。学生さんを住ませたいという風に大学が思っているのであれば、私どもが今進めようとしている空き家対策の部分とコラボする事業内容があって、それで地元で学生さんが住んでいただくということができれば、施策としていいのではというような提案や議論をしていただきたいと思っている。</p> <p>今、大学自身大きく衣替えしようとして動いている。大学を大きく組織再編する中で地方創生に組み込める部分があれば、早い目にそこへ組み込んでいけば案も出せるが、あまりにも日がな過ぎる。</p> <p>この日程の9月というのが、28年度の事業の期限になっており、事業の大方を決めていかないと次年度の予算要求が遅れるので、9月で一度素案いう形をとりたいというのもそういう思いで、実は時間的にあまりないという状況は同じ。よろしければ大学で今どういう風に課題をお持ちなのかということをもう少し詳しくご相談するような機会を取らせていただきたい。</p> <p>あと、ご覧いただいている資料5はイメージということで、先行型で実施している事業以外の部分については、あくまでも総合戦略を作った時に載せなければいけない内容についてのイメージなので、中身については国から提示されている政策パッケージから事務局で拾い上げただけ。先行型以外はこれから考えていく予定であり、例示した内容を柏原市が打ち立てていくかどうかについては今後市の各部局からの提案や委員の皆様の意見も踏まえながら考えていきたいので、意見をいただきながら今後戦略を作っていくという風にお考えいただけたらと思う。</p>
<p>A 委員</p>	<p>8月ぐらいに具体的な案が出てくるようであり、現段階で雇用というのがすごく大きいと思うが、雇用の部分で方向性が何か決まっているのか、企業を誘致して雇用を増やすのか、内部の雇用を作っていくのか、ベッドタウンの強みを活かした雇用の人材育成としてやっていくのか、その方向性があればずれが無く進みやすいと思うが。</p>
<p>副委員長</p>	<p>今、地元の企業に雇用問題で取り組もうとしているのが、今年先行型で出したように、企業サイトを立ち上げてそこでこういう特殊なことをやってますよということを発信したいと思っており、それについて雇用される方を柏原市内で企業さんと一緒に就職フェアを開催したり企業さんに人材を紹介したりというようなことで、ハローワークがやっているような就職をあっせんするような許可を市も取ろうとしている。それで、この許可をいただいて、ハローワークや企業と一緒に今年やりたい。ただ、今ベッドタウンとして企業を増やしてどうする</p>

A 委員	<p>といったような大きな議論はないが、今ある企業と連携して就職を増やしたい、企業が求める技能職種の方を紹介したい、というような段階。</p> <p>ということは、今ある企業とのマッチング作業を第一段階としてされるということか。</p>
副委員長	その通り。
C 委員	<p>さきほど、事務局の説明の中にあつた市民意識調査について、これを見ていると興味深いことが書いてあつて、市民の人に何が重要であるかということと何に満足しているかということを調査しているが、重要度が高くて満足度が低いところに「就労支援」があつて、これはなぜなのかと見ていると、回答者に無職の人が結構多いことが分かつた。なぜこんなに無職の人が多いのかと。</p>
副委員長	それは、調査の質問の出す内容が理解していただくのに難しいのではないかと思っている。
C 委員	私は興味深いと思つており、1000人に回答を求めて半数程度しか回答されていないが、そのうち無職の人は4分の1ほどある。ただ、回答者全体の年齢層が高いので、年齢層の高い人の無職なのか、若い人の無職なのかという点が結果からは見えないのだが、そこに何か市民の声としてのヒントが隠れているのではないかと思つた。
(事務局)	そこは一度クロスして分析してみる。ただ、そこは間違いなく年齢層の高い人の回答率が高いので、どうしてもその意見というのが大きくなってしまふ。
C 委員	恐らくそうだと思うが。
(事務局)	<p>人口推計によると、少子化で14歳以下はどんどん減つていき、65歳以上はどんどん増えていく。そして、80歳ぐらいがすごく増え、20年もすれば3人に1人が65歳以上とのことで、結局生産年齢人口、つまり働き盛りの層がどんどんしぼんでいって、市の税収が減つて自治体が消滅するといわれており、柏原市もそのうちの一つになっている。そういう話で行くと、女性もどんどん社会進出し、60歳代もバリバリ働けたらと思うし、働きたいという意識が現れているかもしれない。そういうこともこれから考えていく必要があると思う。</p>

C 委員	技術を持っている人もいるでしょうし、その人からの若い世代への 伝承もあると思う。
委員長	他に特になければ、これで終了したい。あとは事務局の方から随時 連絡をこまめに入れていただくということで、これから時間が短い ですが、皆さんにご協力をいただくということで、よろしくお願いま す。